

平成 24 年度 教育実習Ⅱ実施報告

小川 史

はじめに

平成 24 年度教育実習Ⅱは、例年通り前期期間中に実施された。

今年度は、3 回の事前指導に加えて 2 回の全体指導を行い、これまでの事前指導の不足を補う形で実施した。だが、まだまだ課題は多い。以下、当該実習全体について詳細を記したい。

1. 実習実施期間について

平成 24 年度教育実習Ⅱは、平成 24 年 5 月から 7 月までの間で実施された。事前指導は実習開始前の 5 回（週に 1 回、5 週）である。実施期間については前年度と同様に設定した。前年度に引き続き、5 月の最初期に行われる実習時期について、ゴールデン・ウィーク明け直後にせず、少し間を空けての実習期間で調整ができた。ただし、はじめの時期に実習を行う学生とおわりの時期に実習を行う学生との間の期間のズレについては、今後とも検討が必要である。また、今年度も、後期期間に実習を行う学生がいなかったため（補講を除く）、後期実習生への事前指導の問題は発生しなかった。

2. 実習内容について

今年度の実習について課題とすべき点は、2 つある。1 つは、前年度まで課題となっている実習記録について、もう 1 つは活動の計画についてである。

学校教育では生徒の基礎学力の低下が叫ばれて久しいが、それが如実にあらわれるのが実習記録である。文章には、基本的な語彙力や漢字の書き取り力のみならず、構成力、表現力、さらには表現上のマナーにいたるまで、書く主体の力量が明確にあらわれる。実習生の日誌を見ると、かなりの部分で印象的な記述が目立ち、表現力不足が感じられる、という前年度までの指摘を繰り返さざるを得ない。この点を改善するには、カリキュラム全体の改革を視野に入れた教育改革が必要となるだろう。さしあたり、今後事前指導などで工夫してゆかなければならないだろう。

2 点目は、活動の計画についてである。前年度においても、部分実習において簡単な活動を行いがちである旨記しておいたが、主活動で行なう活動内容について、実習生のあいだで似通ったものばかりが選ばれる傾向は依然として解消されていない。加えて、今年度新たに指摘しなければならない傾向は、指導案と実際の活動とのズレである。指導上の工夫もあり、指導案については以前よりも書けるようになっている印象をもつが、ここで問題とすべきは書いた実習生本人がその指導案に沿って活動を行うことができていない、あ

るいは実際に行ってみたときに自分自身が書いた指導案についていけない、という点である。つまり、形式上指導案を組み立てることはできているが、いくなれば観念的な傾向があり、実際の経験に即したものになっていない。もちろん、実習生にとっては経験不足がつねに問題となることは否定できない。だが、生活全般での経験の不足傾向が、こういったところに現れていると言えないだろうか。この問題を解消するためには、実際に活動を行う機会を時間の余裕をもってカリキュラム上で確保することが必要である。

以上、平成 24 年度教育実習Ⅱの実施報告を記してきた。上記以外にも、たとえば事前指導の回数や実施内容、事後指導の方法など、引き続き検討すべき事項は何点かあるが、それらは短大の学事予定や保育実習との兼ね合いで検討してゆく必要があるだろう